

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0770401651		
法人名	株式会社 愛心会		
事業所名	ほっとファミリーぞうの目2		
所在地	福島県いわき市平下神谷後原47-1 (電話) 0246(57)0202		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	H21.1.16	評価確定日	

【情報提供票より】(平成20年12月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月24日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤8人, 非常勤	人, 常勤換算7.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	42,000	円	その他の経費(月額)	円		
敷金	有（	円）	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（	円）	有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	500	円	昼食	500	円
	夕食	500	円	おやつ		円
	または1日当たり			円		

(4) 利用者の概要(平成20年12月19日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1		要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.7 歳	最低 73 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かしま病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道6号線に近い交通の便の良い住宅街の中にあり、近くにはスーパーマーケットが多くあり、日頃の買い物に便利であるため外出の機会も多い。また、敷地内には同法人の有料老人ホーム、通所介護、居宅介護支援センター等の事業所があるほか、訪問介護、訪問入浴サービスを運営しており、法人内の他事業所との連携による安心感が特徴的である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 外部4)
	前回評価で取り組みを期待したい内容となった「地域とのつきあい」や「家族等への報告」に関して隣組に参加したり、ホームだよりを毎月発行するとともに、家族来訪時にこまめな報告を行うなど職員で改善に取り組んだ。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4)
	自己評価によって明らかとなった改善事項を前向きに受け止め、さらなるサービス向上に結びつけることにしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5)
	ここ最近、運営推進会議が開催されていなかったが、管理者は会議を開催することを十分に認識しており、運営推進会議委員より意見等をもらうことでサービス向上につなげたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8)
	利用者家族の面会が多いことから、こまめに利用者の状況や金銭管理、職員の異動の報告を行い利用者家族と情報交換を行っている。管理者は、日頃の会話からだけではなく自由に意見等を受け付けるポスト(意見箱)設置の必要性について認識しているので実現に向け取り組んでほしい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3)
	隣組に加入し、幼稚園児等が気軽に立ち寄れる環境となっている。伝統芸能(じゃんがら)や踊りの方が訪れ、夏には花火観賞に出かけるなど地域に出向き季節感を楽しむ機会がある。

2. 評価結果(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者と家族、職員が共に助け合い笑顔で過ごせることで、ひとりひとりの幸福感に結びつくことを大切にしたい理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ひとりひとりの幸福感を大切にしたい理念のもと、笑顔を大切にしたい生き生きとした介護を目指して、管理者はミーティングの際スタッフに理念の理解を求めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として隣組に加入し、幼稚園児等が気軽に立ち寄れる環境となっている。伝統芸能(じゃんがら)や踊りの方が訪れ、夏には花火観賞に出かけるなど地域に出向き季節感を楽しむ機会がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価で明らかになった改善事項の「地域とのつきあい」や「家族等への報告」に関して隣組に参加したり、ホームだよりを毎月発行するとともに、家族来訪時にこまめな報告を行うなど職員で改善に取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者の交代により、平成20年5月以降運営推進会議が開催されていないが、早期の会議開催に向け、その必要性を認識している。	○	再度構成メンバーを検討のうえ参加できる方を委員として依頼し、2ヶ月に1回会議を開催してほしい。運営推進会議で意見交換を行いサービスの質の向上に活かしてほしい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームだよりを毎月発行しているとともに、利用者家族の面会が多いことから、その際にこまめに利用者の状況、金銭管理、職員の異動を報告し、家族の状況についても情報交換している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の面会が多く、事業所と家族の信頼関係づくりや、家族訪問時に気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の馴染みの関係を損なわないよう、異動は最小限に抑えるよう努めており、異動があった場合は十分な引き継ぎと詳しい状況説明により、サービスに影響が出ないよう努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の指定様式により、外部研修報告書を作成し、さらにミーティング時や月2回研修報告を行い職員全員で共有している。年齢層の若い職員が多く、できるだけ研修を受ける機会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入し、同業者間で情報交換を積極的に行い、サービスの質の向上を目指している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活を第一と考え、本人ができることは見守りを行い最小限の介助に徹している。利用者は人生の先輩であることを忘れず、尊敬の念を持ちながら、長い人生での知識や経験から学ぶことを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を十分尊重するとともに、日頃のかかわりから希望や意向等の把握に努めている。家族にも細かく本人の生活状況を報告し、意向等を把握している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の本人との会話や生活状況の観察、家族の面会の際などから意向を把握し、介護計画に反映させている。また、ミーティング時に職員間でも介護計画について話し合い共通認識をしておく。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の定期的な見直しはもとより、本人の状況の変化に応じ家族との話し合いを行い、現状に即した介護計画見直しをしている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期診察は家族が利用者に付き添うこととなっており、利用者が希望するかかりつけ医を受診している。緊急時や希望する時には協力病院を受診することもある。非常勤職員として看護師を雇用することで家族及び医療機関との円滑な情報交換に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人として看取りは行わないことを入所時に利用者や家族に対し説明を行っている。重度化についてはその都度家族、かかりつけ医、事業所により方針を共有している。		
1.その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の活動状況等の写真掲示については家族の承諾を得ている。個人情報及び生活介護面、言葉かけ等プライバシーを損ねることのないよう十分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	オルガン演奏や読書など、利用者それぞれの一番やりたいこと、一人ひとりのペースや生活リズムを常に考え支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の意向を取り入れ、能力やペースに応じて野菜の皮むき・ちぎり等の調理、食器の準備、簡単な片づけにも参加してもらっている。健康状態によって食事の変更にも対応できるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日入浴可能となっており、利用者それぞれの意向に沿った時間帯で入浴ができるよう支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	一人ひとりの意見や生活歴を大切に、オルガンや音楽鑑賞、読書等楽しみごとの支援をしている。職員も一緒に楽しみごとを共有するよう心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	年間を通して買い物をはじめ、近隣へのドライブやなど利用者の希望に応じて外出を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に日中鍵を掛けることはない。職員が目配りをし外に出ようとする利用者には付き添うようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難場所を近くの職員専用駐車場と定め、年2回避難訓練を行っているが、消防署の立ち会いはない。地域や消防団の協力を得た訓練も行っていない。非常時の食料や飲料水の備えもない。	○	消防署の立ち会いにより、避難訓練を行い避難経路確認、消火器使用方法の指導を受けてほしい。近隣及び消防団があれば災害時の協力が得られるよう依頼するとともに、非常食等を早期に常備されることを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量はバランスシートに記入チェックしている。状態に応じて食事形態(ミキサー食、刻み食等)を変更する対応を行っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の日差し調整は、ロールカーテンで適切に行われている。居間は正面に見える畑や花壇から季節感を感じることができるとともに、台所仕事をしながら話すことができる居心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品や家具の持ち込みがあり、利用者の生活スタイルや家族の意向を尊重した居室づくりを行っている。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 ほっとファミリーぞうの目2

記入担当者名 宇野澤 壮宏

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。